

長野県

民俗の会通信

第304号

○生業を支えた力……………三石 稔
 ○県内の農村歌舞伎の分布(第二四〇回例会報告)……………細井雄次郎
 ○霊犬と竜蛇に思いを馳せて(二)―第二四二回例会参加記……………卷山 圭一

生業を支えた力

生業複合(複合生業)の現在

現代において人びとは、サラリーマンに代表されるように単一の生業によって生計を営んできた。と捉えられがちであり、かつても例えば稲作であったり、漁業であったりと、単一生業であったという捉え方をする傾向が強かった。いっぽう生業複合という視点は、決して人々は単一の生業のみで生計を営んできたわけではなく、空間的にも、時間的にも多様な生業を組み合わせて暮らしてきたことを明らかにしようとしたものである。そして必ずしも稼ぎに結びつかない労働も、そしてそこにかかわる人びとも、トータルな意味で生業の一助として存在していたことを気づかせてくれる。

昭和四六年に始まった米の転作政策は、長きにわたり稲作農民を悩ますこととなり、強いては農村の課題を浮き彫りにすることとなった。伊那市西春近小出一区の昭和二一年生まれの男性は、父の世代は稲作農家であったが、高校を卒業するとすぐに会社勤めとなり定年

三石 稔

まで働いた。すでに農村でもサラリーマンになるのは当たり前になりつつあり、それ以前から農閑期に土方に出たりして現金収入を得ようとする人びとは多かったという。父が専業農家で息子はサラリーマンという形は、昭和三〇年代からのひと世代には多い家庭環境であった。したがって父が亡くなると兼業で引き継いだ農業を営むのもよくある形で、それを補ったのは機械化であった。さらに国の政策がそこに絡んでくる。ちょうどほ場整備が行われた昭和五〇年代、地域の一〇軒ほどで協業組合が結成され、そこに加入して耕作をするようになった。農作業を受託して作業料をもらい導入した機械の費用を返済していくもので、農協がかかわって倉庫を建て、そこに機械を格納した。四〇馬力のトラクター一台、田植機二台、コンバイン一台で始めたという。機械化の中でトラクターや耕耘機を持つのは難しく、協業という形を選択した。その組合は「機械銀行」と称し現在も続いて

いて、男性も作業者として加わっているが、国の施策はもはやそこではなく、法人化や担い手への集積へと移行している。単一生業による集中と言えるだろう。地区内には法人も設立されているが、いまもって機械銀行に頼る土地持ち農家もいる。かつての兼業農家を補完する形で生き残っているものの、部分作業委託はこの後減少していくため、草刈まで一括受託する法人や担い手農家に移行していくとみられ、「いづれ機械銀行はなくなるかもしれない」と男性は言う。

また男性は、自分でやっている農業は家庭菜園並みと言うものの、さまざまなものを年間通して収穫している。表1はおよそ二反歩ほどの転作田に栽培しているものと、周囲で採取しているものなどを暦として表したものである。子どもさんたちが身近にいて、消費する者がたくさんいるからいろいろ育てているとは言うものの、同じ品種でも時期をずらして「いつでも食べられる」ように工夫しているという。その理由は退職後しばらくして始めた蕎麦の提供であった。蕎麦屋と一般に広報しているものではないものの、くちづてに訪れる客がいるため、一日一組限定で蕎麦を提供するようになったという。蕎麦とともに

旧暦の七月二日を固く守っている。土日に移動させるようなことはない。

同じ日、伊那市坂下常円寺においても同様の二十二夜様の祭りがおこなわれているとい、こちらについては中崎隆生氏が「常円寺丸山公園の二十二夜様」と題して『伊那路』第六〇巻一〇号(通巻七一七号)で報告と考察をしている。こちら旧暦の七月二日を固く守っている。

天女橋を渡って南側のたもとは、折から九頭龍神社のお祭りがおこなわれていた。これも旧暦七月二日のお祭りだという。三峰川を挟んで、同日に二十二夜様と九頭龍神社のお祭りがおこなわれているのである。天女橋からわずか下流、その左岸にやはり岩場があって、そこに九頭龍の神の小祠があることを小原稔氏が聞き取ってくれて、行って見たらたしかにあった。

たとえば松本市里山辺の南小松では、薄川でオセビキ(お瀬引)という行事をしていた。戸隠の九頭龍権現から石を授かってきて、わたらのツトッコにくるみ、きれで腰に結わえつけて、旗を先頭に若衆が川のなかを川上から川下に向かって走った。水がまっすぐに流れるように、という意味だといわれていた(『松本市史第三巻民俗編』)。これは薄川の事例であるが、このように九頭龍信仰には、三峰川の治水や、あるいは雨乞いの願いが込められているものと推察される。

(安曇野市)

長野県民俗の会第二四四回例会のご案内

松本平の御柱は、松本市と安曇野市の東西の山寄りを中心に小正月に毎年行われている年中行事です。御柱は、五穀豊穣、家内安全、子孫繁栄などを祈念して立てられる道祖神祭りの一つです。第二四四回例会は、安曇野の御柱をめぐる、あわせて通りすがりにある彩色道祖神も見学します。

一 日時 令和七年一月一日(土)

一〇時～一六時頃

二 集合 安曇野市宮駐車場

(安曇野市三郷明盛一四八二)

三 見学予定 御柱

・三郷一日市場(下町、中町、上町)

・豊科吉野(荒井、吉野、中村、梶海渡)

・穂高本郷の彩色道祖神

・穂高倉平

・穂高塚原巾上

四 その他

・それぞれ場所が離れているため、乗り合わせでの移動となります。

・昼食は穂高の食堂を予定しています。

五 問合わせ先 松本市 小原稔まで

☎ 〇八〇—四一三四—三八七七

◇『通信』原稿募集について

『長野県民俗の会通信』の原稿は随時募集しています。会員の皆様には投稿していただけるとありがたいです。

◇会員異動

〇入会 石田健太(神奈川県横浜市)
伊藤 修(上伊那郡)

◇事務局から

まだのかたは、令和六年度の会費納入をお願いいたします。会費の前納にご協力願います。また、令和五年度以前の会費を未納の皆様は、急ぎ納入をお願いします。

◇受贈図書

『まつり通信』六三一・六三二(まつり同好会)

・鈴木通大「田遊び」行事について―再興した鶴見神社の田祭りを中心に その1―などを掲載(六三一)

長野県民俗の会通信三〇四号

二〇二四年十一月一日

会費年額 五、〇〇〇円

長野県民俗の会

〒260-0801 長野県上伊那郡信濃町1-1-1

TEL: 026-233-1111 FAX: 026-233-1112

E-mail: info@nagano-minzoku.chu.jp

URL: http://nagano-minzoku.chu.jp/

長野県民俗の会

E-mail: info@nagano-minzoku.chu.jp
URL: http://nagano-minzoku.chu.jp/